

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A) 昭64-84297

⑫ Int.Cl.

G 09 G 3/20  
G 09 F 9/30

識別記号

3 3 8

序内整理番号

7335-5C  
7335-5C

⑬ 公開 昭和64年(1989)3月29日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全7頁)

⑭ 発明の名称 表示装置

⑮ 特 願 昭62-243197

⑯ 出 願 昭62(1987)9月28日

⑰ 発明者 梶村 元二 神奈川県川崎市幸区堀川町72 株式会社東芝堀川町工場内

⑱ 発明者 笠原 幸一 神奈川県横浜市磯子区新杉田町8番地 株式会社東芝横浜事業所内

⑲ 出願人 株式会社東芝 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

⑳ 代理人 弁理士 須山 佐一

明 論 書

1. 発明の名称

表示装置

2. 特許請求の範囲

(1) 複数の走査電極線と複数の信号電極線とが交差するように配置された表示装置において、前記複数の信号電極線が複数組に組分けされ、各組に、前記各信号電極線に対応する信号を時分割的に供給する信号伝送手段が少なくとも設けられていることを特徴とする表示装置。

(2) 前記信号伝送手段は、薄膜トランジスタで構成されたデマルチブレクサであることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の表示装置。

(3) 前記各デマルチブレクサは、1個の外部接続端子に接続された入力部と、前記各組の信号電極線の本数に対応し、それぞれが所定の信号電極線に接続された出力部と、前記各組の信号電極線の本数に対応し、それぞれが所定の制御線に接続された制御部とを有し、前記デマルチブレクサは、前記制御線からの信号により前記入力部に与えら

れる信号を前記所定の信号電極線に出力することを特徴とする特許請求の範囲第2項記載の表示装置。

(4) 前記各デマルチブレクサは、前記信号電極線を1本おきに選択した組とされ、デマルチブレクサが前記信号電極線の両端部に分配して対向配位されていることを特徴とする特許請求の範囲第2項記載の表示装置。

(5) 前記複数の走査電極線と前記複数の信号電極線とが交差する位置に薄膜トランジスタからなるスイッチング素子を介して、表示電極が配置されていることを特徴とする特許請求の範囲第2項記載の表示装置。

(6) 前記各デマルチブレクサは、前記薄膜トランジスタが配置された基板と同一基板に形成されていることを特徴とする特許請求の範囲第5項記載の表示装置。

3. 発明の詳細な説明

【発明の目的】

(産業上の利用分野)

本発明は、マトリクス型の表示装置に関し、特に信号電極線の外部接続端子数を低減した表示装置に関する。

## (従来の技術)

従来から、電子機器等において、文字、図形等を表示させるものでは、マトリクス型の表示装置が用いられている。

上述したマトリクス型の表示装置、例えばアクティブ・マトリクス型表示装置では、複数の走査電極線と、これと交差するように配置された複数の信号電極線と、その交差部にスイッチング素子を介して信号電極線に接続された表示電極を有している。一方、これらに対向して、共通電極が配置されるとともに、表示電極と共に走査電極間に表示媒体が設けられている。表示媒体としては、液晶、エレクトロルミネッセント物質等が利用される。

このような表示装置では、走査電極線に順次選択信号が与えられ、これと同期して複数の信号電極線に表示信号が入力されることにより、選択された走査電極線上の複数のスイッチング素子が導

子との接続作業が困難となってしまうという不都合を生じる。

このような不都合を解決するものとして、表示装置の基板上に駆動回路群を組込む方法がある。

この方法は、集積回路素子を直接表示装置の基板上に配設したり、あるいは薄膜トランジスタ（以下、単にTFTという）で駆動回路を構成し、同じく表示装置の基板上に配置するというものである。

しかしながら、集積回路素子を直接表示装置の基板上に配設する方法では、集積回路素子のための配線網が必要となり、複雑化する。またこれらのスペースのために基板が大形化し、製造において多数個取りをする際には一度に得られる基板の数が減る。またTFTで駆動回路を構成し表示装置の基板上に配置するものでは、例えばアモルファスシリコンでTFTを構成した場合には、TFTの周波数応答の点から高運動動作ができず、実用的ではない。

また、TFTで駆動回路の一部を構成するととも

に、これらのスイッチング素子を介して所定の表示信号が表示電極に書込まれ、所望の表示がなされる。

そして、カラー表示を行う場合には、エレクトロルミネッセントを利用した表示装置では各表示電極に色成分、例えば赤、緑、青色の光を発するように蛍光体が塗り分けられ、また液晶を利用した表示装置では、各表示電極に対応して透過光の異なるフィルタが設けられる。

ところで、近年、大画面や高精細画像等の要求にともない、表示電極の数、即ち画素の数が増加される傾向にある。従って、画素が増加されるにともない、画素を選択するための走査電極線および信号電極線の数が増えてしまう。

この走査電極線および信号電極線の数の増加は、この表示装置を駆動する外部装置（例えば駆動用集積回路素子が実装された基板）と接続するための外部接続端子数の増加をもたらす。さらには、外部接続端子の増加により各端子間のピッチが狭くなったり、外部接続端子と、外部装置の接続端

に、これを表示装置の基板上に配置するものの一例として、特開昭61-198198号公報には、走査電極線に $M \times N$ 個のTFTからなるデコーディング回路を設けることにより、外部接続端子の数を減らした液晶表示装置が示されている。即ち、ゲート電極とドレイン電極とがマトリクス状に結線された $M \times N$ 個のTFTを設け、これらTFTのソース電極を走査電極線に接続している。そして、これらのTFTのゲート電極とドレイン電極に順次所定の信号を与え、 $M \times N$ 個のTFTのソース電極から順次選択信号を取り出し、所定の走査電極線に選択信号を供給している。これにより $M \times N$ 個の走査電極の外部接続端子数を $M+N$ 個に減らしている。

## (発明が解決しようとする問題点)

しかしながら、上記の公報に示された液晶表示装置では、デコーディング回路のTFTがオフ状態となっている走査電極線（非選択状態の走査電極線）は、フローティング状態となる。このため、非選択状態の走査電極線はノイズ等により電圧が不安定になり易い。

走査電極線は各画素部でTFTのゲート電極に接続されているので、特にノイズにより非選択状態の走査電極線の電位が上昇すると、この走査電極線に結合された画素部のTFTがオンあるいは半導通状態となり、画素部に保持された電荷がリークして他の画素部に流入し、表示状態が劣化するという問題がある。

本発明は、このような問題点を解決しつつ、信号電極線の外部接続端子数を減らすことができ、かつ複数の信号電極線と複数の走査電極線とが互いに交差する部分の所定の表示電極の駆動動作が安定である表示装置を提供することを目的とする。

#### [発明の構成]

##### (問題点を解決するための手段)

本発明は、複数の走査電極線と複数の信号電極線とが交差するように配置された表示装置において、前記複数の信号電極線が複数組に組分けされ、各組に、前記各信号電極線に対応する信号を時分割的に供給する信号伝達手段が少なくとも設けられていることを特徴とする。

サ  $T_1 \sim T_n$  を介して 3 本づつに組分けされて複数の組に構成されている。そして、走査電極線  $X_1 \sim X_n$  と信号電極線  $Y_1 \sim Y_m$  とが互いに交差する部分に  $M \times N$  個の例えれば TFT からなるスイッチング素子  $S$  を介して表示電極  $G$  が形成されている。さらに、デマルチブレクサ  $T_1 \sim T_n$  は、信号接続端子  $Z_1 \sim Z_n$  に接続されており、またこのデマルチブレクサ  $T_1 \sim T_n$  には、制御線  $G_x, G_y, G_z$  が接続されている。制御線  $G_x, G_y, G_z$  には制御端子  $G_1, G_2, G_3$  よりゲート信号が入力される。なお、デマルチブレクサ  $T_1 \sim T_n$  部を除いた構成は、周知の TFT を用いたアクティブ・マトリクス型の液晶表示装置と同様の構成であり、また図示しないが基板 2 に対向するように共通電極が形成された基板が設けられ、両者の間には液晶が挟持されている。

なお、同図において、走査電極線  $X_1 \sim X_n$  の各走査電極接続端子  $3, 3 \dots$  が千鳥状に設けられているが、片側のみに設けてもよく、あるいは両側を一列に並べてもよい。

#### (作用)

本発明によれば、信号電極線が複数組に組分けされ、各組に、前記各信号電極線に対応する信号を時分割的に供給する信号伝達手段を少なくとも設けたので、信号電極線の外部接続端子数を減らすことができる。

#### (実施例)

以下、本発明に係る表示装置の実施例を図面を参照しながら詳細に説明する。

第 1 図は、アクティブ・マトリクス型の液晶表示装置に適用した例を示す図で、同図に示すように液晶表示装置 1 の基板 2 上の横方向には、走査信号が入力される走査電極線  $X_1, X_2 \dots X_n$  が設けられており、各走査電極線  $X_1 \sim X_n$  の両端には、走査電極接続端子  $3, 3 \dots$  が千鳥状に設けられている。

また、液晶表示装置 1 の基板 2 上の縱方向には、表示信号が入力される信号電極線  $Y_1, Y_2 \dots Y_m$  が設けられており、この信号電極線  $Y_1 \sim Y_m$  は、薄膜トランジスタ (TFT) からなるデマルチブレク

また、信号電極線  $Y_1, Y_2 \dots Y_m$  の各組は、3 本づつとされているが、これに限らず 2 本以上であればよく、表示装置の構成上好ましくは、各組の信号電極線本数の整数倍が信号電極線本数となるように、各組の信号電極線の本数を決める。

第 2 図 (a) は第 1 図のデマルチブレクサ  $T_1, T_2$  を拡大して示す図で、また第 2 図 (b) はデマルチブレクサ  $T_1, T_2$  の等価回路図である。

まず、第 2 図 (b) を参照すれば、このデマルチブレクサ  $T_1, T_2$  は、それぞれ 3 つの TFT からなるスイッチング素子  $H_1, H_2, H_3$  を有し、各ドレイン電極が共通接続されて外部接続端子  $Z_1, Z_2$  に接続されている。各ソース電極はそれぞれ所定の信号電極線  $Y_1, Y_2, Y_3, Y_4, Y_5, Y_6$  に接続されている。一方、それぞれのスイッチング素子  $H_1, H_2, H_3$  のゲート電極は各デマルチブレクサ  $T_1 \sim T_n$  間で共通の制御線  $G_x, G_y, G_z$  に接続されている。このような各デマルチブレクサは第 2 図 (a) に示すように構成され、制御線  $G_x, G_y, G_z$  に接続されたゲート電極

特開昭64-84297 (4)

(6上に、絶縁膜(図示せず)を介してアモルファスシリコン膜(図示せず)が形成され、さらにこの上にそれぞれドレイン電極Dおよびソース電極Sが形成されている。なお、これらTFTの構成は画素部のTFTと同様の構成にするとよい。そして、これらのデマルチブレクサT<sub>1</sub>～T<sub>L</sub>は、信号接続端子Z<sub>1</sub>～Z<sub>L</sub>に入力された入力信号を、制御線Gx、Gy、Gzに入力されるゲート信号に基づき各信号電極線Y<sub>1</sub>～Y<sub>M</sub>へ選択的に出力する作用をする。

次に、このように構成された液晶表示装置の動作について説明する。

まず、走査電極線X<sub>1</sub>に選択信号が入力された後、この選択期間内にデマルチブレクサT<sub>1</sub>～T<sub>L</sub>に接続されている制御線Gx、Gy、Gzに互いにタイミングのずれたオーバーラップすることのないゲート信号が順次入力される。

例えば、制御線Gxにゲート信号が入力されると、各デマルチブレクサT<sub>1</sub>～T<sub>L</sub>のスイッチング素子M<sub>1</sub>がオンとなり、各組の信号電極線Y<sub>1</sub>、

X<sub>2</sub>に選択信号が入力され、さらに上記の制御線Gx、Gy、Gzにゲート信号の入力が繰り返えされる。そして、信号接続端子Z<sub>1</sub>～Z<sub>L</sub>から表示信号が時分割的に入力されて、走査電極線X<sub>2</sub>上の画素が順次駆動される。

さらに、同様の動作を走査電極線X<sub>3</sub>～X<sub>M</sub>に対しても行なうことにより、走査電極線X<sub>1</sub>～X<sub>M</sub>上のM×M個の画素が駆動されて所望の画素の1フレームが表示される。

このように、デマルチブレクサを介して信号電極線Y<sub>1</sub>～Y<sub>M</sub>が3本づつに粗分けされて複数の組に構成されることにより、各組のデマルチブレクサに接続される信号接続端子Z<sub>1</sub>～Z<sub>L</sub>の数(この実施例ではM×1/3個になる)を減すことができるので、この信号接続端子Z<sub>1</sub>～Z<sub>L</sub>に接続される駆動用IC(図示せず)の外部接続端子(図示せず)の数も減すことができ、さらには信号接続端子Z<sub>1</sub>～Z<sub>L</sub>と駆動用ICの外部接続端子との配線が容易となる。

また、デマルチブレクサT<sub>1</sub>～T<sub>L</sub>は、このデ

Y<sub>1</sub>～Y<sub>M</sub>-2と信号接続端子Z<sub>1</sub>～Z<sub>L</sub>間が導通状態となり、次いで表示接続端子Z<sub>1</sub>～Z<sub>L</sub>から表示信号が入力されて、画素a<sub>1</sub>、a<sub>2</sub>、…a<sub>M</sub>-2が駆動される。

これらの動作が終了すると、制御線Gy、Gzに順次ゲート信号が入力され、各組の信号電極線Y<sub>1</sub>、Y<sub>2</sub>～Y<sub>M</sub>-2とY<sub>3</sub>、Y<sub>4</sub>～Y<sub>M</sub>と信号接続端子Z<sub>1</sub>～Z<sub>L</sub>間が順次導通状態となる。これらの導通状態のタイミングに合せて各信号接続端子Z<sub>1</sub>～Z<sub>L</sub>から所定の画素に対応する表示信号が時分割的に入力されて、走査電極線X<sub>1</sub>上の残りの画素が駆動される。

この時、デマルチブレクサT<sub>1</sub>～T<sub>L</sub>のスイッチング素子M<sub>1</sub>、M<sub>2</sub>、M<sub>3</sub>が非選択(オフ)状態のものは、表示装置内部の信号電極線はフローティング状態となる。しかしながら、信号電極線は画素部のTFTのドレイン電極に接続されており、ノイズにより信号電極線電位が変動しても従来技術のように表示画像の劣化とはならない。

これらの一連の動作が終了した後、走査電極線

マルチブレクサT<sub>1</sub>～T<sub>L</sub>を構成するTFTのチャネル長(L)が10μm程度とされても、チャネル幅(W)を充分広くするスペースが確保されるので、スイッチング速度を充分速くすることが可能である。

そして、例えば信号電極線Y<sub>1</sub>の容量を100PF、信号電圧を5V、書き込み時間を10μsとした場合、TFTの駆動電流は50μAもあればよく、チャネル長(L)を10μmとした場合、チャネル幅(W)は100μmもあれば充分である。

なお、上述の実施例のデマルチブレクサT<sub>1</sub>～T<sub>L</sub>の形状は、第3図に示すように櫛歯型としてもよい。

このような構成のデマルチブレクサTでは、チャネル幅を実質的に広くすることができるので、さらに速いスイッチング速度を必要とする場合において好適である。

第4図は、第1図に示した液晶表示装置1の構成を変えた本発明の他の実施例を示す図で、同図に示すように信号電極線Y<sub>1</sub>～Y<sub>M</sub>が1本おきに3

特開昭64-84297 (5)

本2つの組とされた複数組が構成され、隣り合う組の端部には、対向されてデマルチブレクサ  $T_1 \sim T_4$  が設けられている。

このように構成された液晶表示装置1では、デマルチブレクサ  $T_1 \sim T_4$  に接続される各隣り合う信号接続端子  $Z_1 \sim Z_4$  のスペースが広くできるとともに、デマルチブレクサ  $T_1 \sim T_4$  を構成するTFTの設計自由度を増すことができる。

第5図は、第1図に示した液晶表示装置1の構成を変えた本発明のさらに他の実施例を示す図で、走査電極線  $X_1 \sim X_n$  に2本同時に走査信号が入力されるように、信号電極線  $Y_1 \sim Y_m$  を中央付近で分割して信号電極線  $Y_1 \sim Y_m$  と  $Y_1' \sim Y_{m'}$  とに分け、走査電極線  $X_1 \sim X_n$  を中央付近を介して短絡させた構成としている。

このような構成の液晶表示装置1では、各信号電極線  $Y_1 \sim Y_m$ 、 $Y_1' \sim Y_{m'}$  に対して上下に設けられたデマルチブレクサ  $T_1 \sim T_4$ 、 $T_1' \sim T_4'$  を介して各画素が時分割的に駆動される。

なお、以上の各実施例において、各画素への信

号電極線の外部接続端子の数を減すことができる。

また、信号接続端子  $Z_1 \sim Z_4$  の駆動用ICの出力線の数も同様に減すことができるので、駆動回路を含めた液晶表示装置1の組立作業が大幅に簡便化される。

さらには、液晶表示装置1の信号電極線  $Y_1 \sim Y_m$  への印加信号を切換える薄膜トランジスタの配設が必要となるが、性能の面では場所的制約が少ないとから配設可能となり、しかも充分なスイッチング速度を得ることが容易であるばかりでなく、薄膜トランジスタの配設スペースも比較的小さくすることができる。

また、アクティブラーマトリクス形の液晶表示装置に適用した例を示したが、この例に限らず例えばEL液晶表示装置等にも適用可能である。

【発明の効果】

以上説明したように、本発明の表示装置は、信

号電極線の外部接続端子の数を減すことができる。

#### 4. 図面の簡単な説明

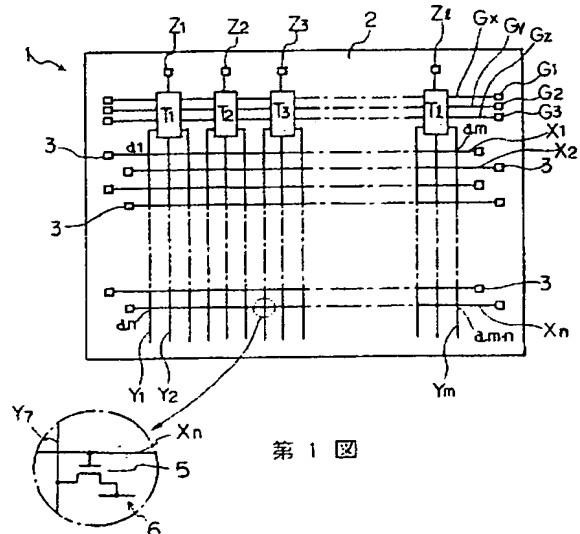
第1図は本発明に係る液晶表示装置を示す平面図、第2図(a) (b)は第1図のデマルチブレクサの拡大図及び等価回路図、第3図は第1図のデマルチブレクサの構成を変えたデマルチブレクサを示す拡大図、第4図は第1図の液晶表示装置の構成を変えた本発明の他の実施例を示す液晶表示装置の平面図、第5図は第1図の液晶表示装置の構成を変えた本発明のさらに他の実施例を示す液晶表示装置の平面図である。

1…液晶表示装置、2…基板、3…走査接続端子、 $G_1 \sim G_m$ …制御端子、 $G_x \sim G_z$ …制御線、 $T_1 \sim T_4$ 、 $T_1' \sim T_4'$ …デマルチブレクサ、 $X_1 \sim X_n$ …走査電極線、 $Y_1 \sim Y_m$ 、 $Y_1' \sim Y_{m'}$ …信号電極線、 $Z_1 \sim Z_4$ …信号接続端子。

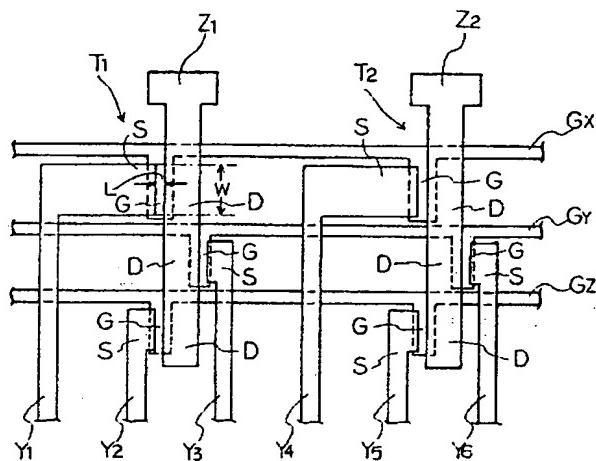
出願人

株式会社 東芝

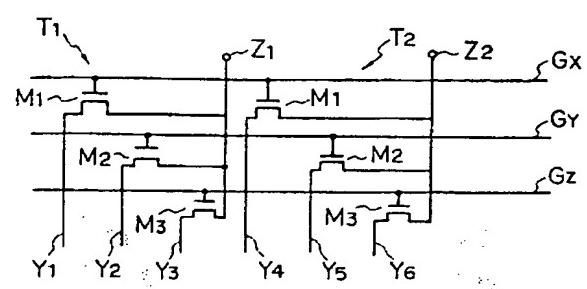
代理人弁理士 須山 佐一



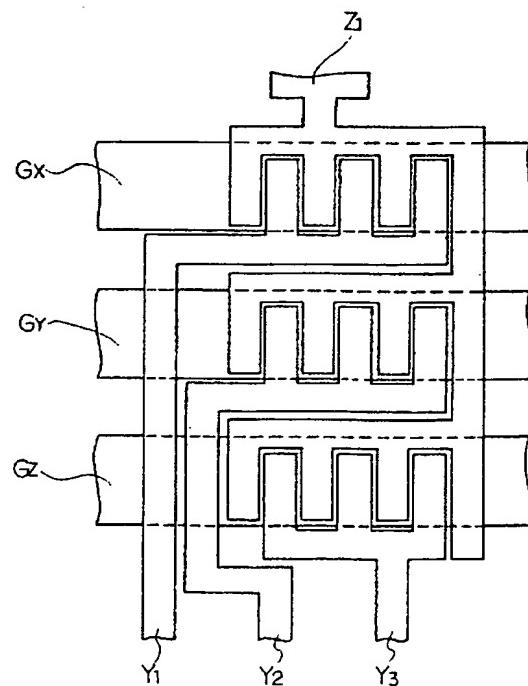
第1図



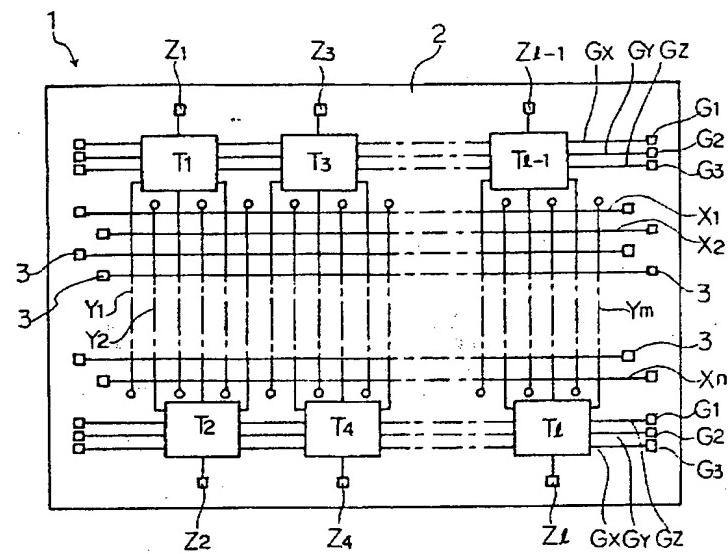
第2図 (a)



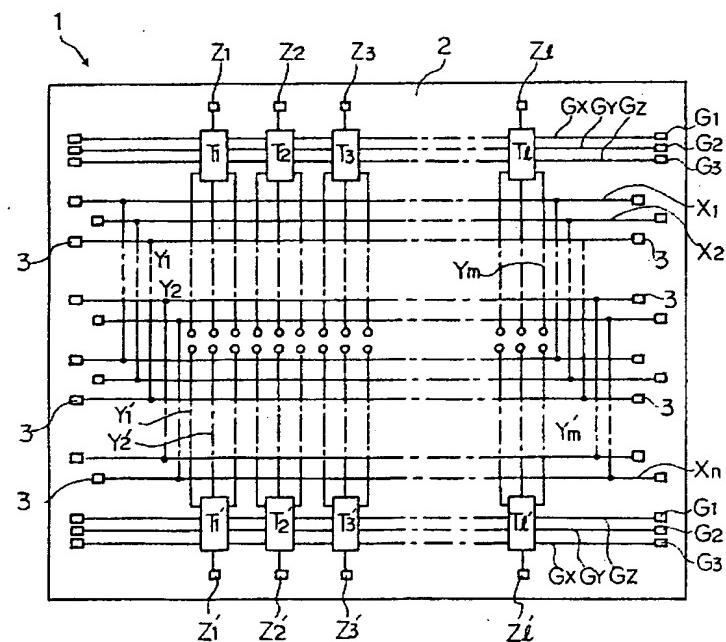
第2図 (b)



第3図



第4図



第5図

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**